

目次

はしがき *i*

樋口美雄・宮内環・C. R. McKenzie

第1部 JHPSの標本特性

第1章 JHPS2011の概況 *3*

石井加代子

第1節 はじめに *4*

第2節 JHPS2011の概要と回答状況 *4*

第3節 JHPS2011調査結果の概況 *5*

1 就業状況について *5*

2 時間配分について *8*

3 ライフイベントの発生について *11*

4 健康状態や生活習慣について *13*

5 世帯の貯蓄・資産・負債について *15*

6 世帯の所得・支出について *17*

第4節 おわりに *18*

第2部 教育

第2章	子どもの学力と家計——『慶應子どもパネル調査2011』を用いて	23
	赤林英夫／中村亮介／直井道生／山下絢／敷島千鶴／篠ヶ谷圭太	
第1節	はじめに	24
第2節	データセットと学力の指標	25
	1 データセット	25
	2 学力の指標	27
第3節	子どもの属性と学力	27
	1 性別の影響	27
	2 出生月の影響	27
	3 きょうだい数の影響	29
	4 統計的仮説検定の結果	29
第4節	家庭背景と学力	32
	1 両親の学歴の影響	32
	2 家計収入の影響	35
	3 統計的仮説検定の結果	39
第5節	OLSによる推定結果	39
第6節	おわりに	41
Appendix	標本の特性	42
第3章	子どもの社会性・適応感と家庭背景——慶應子どもパネル調査2011から	47
	敷島千鶴／山下絢／赤林英夫	
第1節	問題と目的	48
第2節	方法	51
	1 協力者	51
	2 測度	52
第3節	結果	57
	1 記述統計量と性別・学年との関連	57
	2 次元間相関	59
	3 きょうだい構成との関連	60
	4 親の学歴・親の就業との関連	61
	5 父母年齢・父母メンタルヘルス・世帯年収との関連	63
	6 多変量解析	64
第4節	知見のまとめと考察	66

第4章 家庭背景が子どもの学力に与える影響とそのプロセス	
——階層的重回帰分析と構造方程式モデリングを用いた検討	71
	篠ヶ谷圭太／赤林英夫
第1節 問題と目的	72
第2節 分析に利用したデータと変数	75
1 対象	75
2 測度	75
第3節 階層的重回帰分析による結果	76
第4節 構造方程式モデリングによる分析	79
第5節 結果の解釈と考察	82
第6節 本研究の限界点と今後の展望	85

第3部 健康

第5章 2010年たばこ税引き上げの効果——JHPSによるパネルデータ分析	93
	河井啓希
第1節 分析目的	94
第2節 2010年たばこ税引き上げのインパクト	95
1 たばこ需要と喫煙率の変化	95
2 JHPSでみる属性別喫煙率、喫煙本数の変化	95
第3節 たばこ需要の価格弾力性の推定	99
1 たばこ価格と価格弾力性の推定	99
2 アンケートデータによる Conjoint 分析との比較	101
3 喫煙率、喫煙本数の価格弾力性	103
第4節 価格以外のたばこ需要抑制要因の検討	103
1 教育、所得	103
2 職種、労働時間	105
3 家族	105
4 喫煙規制	105
第5節 結論	105
第6章 母親の就業は子どもの肥満をもたらすのか	109
	李青雅
第1節 はじめに	110
第2節 分析の枠組み	111
1 先行研究	111

2	推定モデル	113
第3節	使用するデータ	114
1	基本統計量	114
2	母親の労働時間と肥満の関係	115
第4節	母親の就業が肥満に与える影響	117
1	基本モデル	117
2	男女の違い	117
3	過去の就業状況と労働時間の変化の影響	118
第5節	大人になってからの肥満への影響	119
第6節	おわりに	119

第4部 税社会保障と就業

第7章 介護の負担と就業行動 125

大津唯／駒村康平

第1節	はじめに	126
第2節	先行研究と本稿の位置付け	127
第3節	データ	128
第4節	分析の枠組み	129
第5節	推計結果	131
1	モデル1	131
2	モデル2	132
第6節	おわりに	134

第8章 世帯主の就業形態と有子現役世帯の貧困の動態分析

——二人親世帯と一人親世帯の比較 137

馬欣欣

第1節	はじめに	138
第2節	先行研究のサーベイと本章の特徴	139
第3節	有子世帯における貧困の状況	141
1	有子世帯における世帯類型別相対的貧困率の推移	141
2	有子世帯における世帯主の就業形態別相対的貧困率の推移	142
第4節	計量分析の枠組み	143
1	推定モデル	143
2	用いたデータと変数設定の説明	145
第5節	計量分析の結果	147

1 静学的な分析—— 一時的貧困確率に関する分析結果	147
2 動態的分析—— 貧困突入確率と貧困脱出確率に関する分析結果	150
第6節 結論と政策的示唆	152

**第9章 近年の景気後退は有配偶女性の労働力化・非労働力化に
どのような影響を与えているのか
——子どもの人数によってどう異なるか** 157

深堀遼太郎

第1節 問題意識	158
第2節 マクロ統計に見るファクト・ファインディング	159
第3節 先行研究	160
第4節 使用するデータ	162
第5節 推計	163
1 分析の目的	163
2 推計方法	164
3 分析対象	164
4 分析上の理論仮説	165
5 分析に使用する変数	165
6 推計結果	168
第6節 むすびにかえて	171

付録1 調査票
付録2 調査票（慶應子どもパネル調査）
付録3 活動報告